

## 『異文化経営研究』投稿規程

### 1. 基本方針

- ・ 異文化経営学会における研究活動を広く世に問うことを目的とし、学会誌『異文化経営研究』（以下、学会誌）を年に1回発行する。
- ・ 学会誌に掲載する研究論文、研究ノート、ケーススタディおよび招聘論文、寄稿は、異文化経営または関連するテーマとする。

### 2. 投稿資格

- ・ 原則として学会員とする。
- ・ 投稿論文は異文化経営または異文化経営に関連するテーマとする。
- ・ 尚、共著の場合は、ファーストオーサー（第一執筆者）が学会員であれば投稿資格を有する。

### 3. 査読について

- ・ 原稿は学会誌編集委員会が依頼する匿名レフリーによる審査を受ける。
- ・ この場合レフリーのコメントに基づき原稿の修正が求められることもある。
- ・ 原稿は初出のもので他誌への投稿予定のないものに限る。

### 4. 投稿原稿の分類

投稿できる原稿は以下の3分類とする。

#### ① 研究論文(Article) :

学術的な性格と厳密さを有するオリジナル（初出）の論稿であること。

先行研究に基づき問題提起が的確で、方法論の選択、分析手法、分析結果の解釈および考察が適切であること。そして本学会の学術研究の発展に貢献しうるもの。

#### ② 研究ノート(Research Note):

問題提起ないしは問題整理はなされているが、研究論文として以下の点で該当しないものの、高い資料的価値を有する論稿。

（先行研究に関するサーベイが不十分、方法論の選択および分析手法に関する厳密性を欠く、考察、解釈にやや飛躍がある）

#### ③ ケーススタディ (Case Study)

文献サーベイや方法論を重視せず、具体的事例の紹介・解説を主目的としたもの。

### 5. 著作権

本学会誌に掲載される研究論文、研究ノート、ケーススタディおよび招聘論文、寄稿の著作権は本学会に帰属するものとするが、転載を希望する場合には当学会に申し出の上、特別の

場合を除いて原則として認めることとする。

## 6. 提出先／締切日

提出先および問い合わせ先

〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16

立正大学経営学部高橋俊一研究室気付『異文化経営研究投稿係』

e-mail [ibunkakeiei@gmail.com](mailto:ibunkakeiei@gmail.com)

原稿提出締切日： 毎年 5月10日前後

提出物と形式：

- ①原稿のハードコピー2部（図表など挿入済みの決定稿）を郵送にて提出
- ②承諾書を①と合わせて郵送にて提出
- ③原稿：Microsoft Word ファイルをeメールに添付して提出
- ④投稿票：Microsoft Excel ファイルをeメールに添付して提出

### 『異文化経営研究』執筆要項

1. 掲載原稿は、本会会員の中から選出された委員からなる編集委員会が決定する。原稿は初出のもので、他誌への掲載予定のないものに限る。
2. 原稿の分量については、「研究論文」と「研究ノート」は、図表を含めて15,000字以内とする。「ケーススタディ」は、図表を含めて7,000字以内とする。図表1つにつき400字相当として計算する。図表は、図と表に分けず、「図表1 異文化経営論の分類」、のように、番号と見出しを必ず付け、本文中に挿入する。
3. 用紙は、B5判とし、ワープロ（ワード等）で、原則として1ページにつき1行42字詰め（全角換算）で32行とする。表記については、現代仮名づかい、常用漢字を使用し、横書き、明朝体（10ポイント）とする。〈注〉および〈参考文献〉は本文フォントサイズよりポイントを下げ、9ポイントとする。左右の余白は20ミリ、上下の余白は、それぞれ20ミリとする。図表内の文字のフォントは概ね7ポイント以上とする。句読点は「、」および「。」を用い、英文の場合は「,」および「.」を用いる。英字および2桁以上の数字は原則として半角で打つ。
4. 本文標題の後に、執筆者所属組織名、および次の行に執筆者名を、それぞれ左寄せで記入すること。

例： 異文化経営と組織

〇〇大学〇〇学部教授

鈴木 一郎

5. 前記標題および所属名・氏名の後、本文文頭に、400字以内の和文要旨、およびキーワードを5つ付記すること。

例： <要旨>

・・・・・・・・・・・・・・・・。

<キーワード> 異文化、組織アイデンティティ、・・・・、・・・・

6. 〈注〉は、一括して本文の後に注記番号順に列記する（後注の形式）。注記番号は本文中の当該個所の右肩に算用数字で記載すること。注の使用は最小限にすること。

例：・・・・・・・・と述べている<sup>1)</sup>。

〈注〉

1. 詳細については、田中（2000）や鈴木（2007）を参照。

2. この点に関して田中（2001）は、以下のように主張している。・・・・・・・・。

7. 〈参考文献〉は、〈注〉の後に一括し、下記の要領でアルファベット順（姓・family name による）に列記する。なお、欧文の書名および雑誌名はイタリック体とする。

① 単行本＝著者名（発行年）『書名』発行地（外国の場合のみ）出版社。

② 雑誌論文＝執筆者名（発行年）「題名」『雑誌名』、巻号、掲載頁。

③ 分担執筆論文＝執筆者名（発行年）「題名」編集者名『書名（論集名）』、掲載頁、出版社。

例：馬越恵美子（2000）『異文化経営論の展開』学文社。

馬越恵美子（2003）「異文化コミュニケーションと異文化マネジメント」『マネジメント・コミュニケーション研究』、第3号、3-20頁。

Trompenaars, F. (1993) *Riding the Waves of Culture*, London: Nicholas Brealey.

Pettigrew, A. M. (1999) "On Studying Organizational Cultures", *Administrative Science Quarterly*, Vol.24, pp.570-581.

Hofstede, G. (1991) *Cultures and Organizations: Software of the mind*, London: McGraw-Hill.

（岩井紀子・岩井八郎訳（1995）『多文化世界：違いを学び共存への道を探る』有斐閣）

8. 〈参考文献〉の後に、英文による、①標題、②執筆者氏名・所属組織・職名、③100words 以内の要旨、④5つのキーワード、を付記すること。

9. 以上の記載順番を再確認すると以下の通りとなる。

①論文標題、②執筆者所属組織名・執筆者名、③和文の要旨とキーワード、④本文、⑤〈注〉、

⑥〈参考文献〉、⑦英文による、標題、執筆者氏名・所属組織名・職名、100word 以内の要旨とキーワード

10. なお、引用に際しては、原著者の著作権に十分配慮すること。

（2012年4月改正）